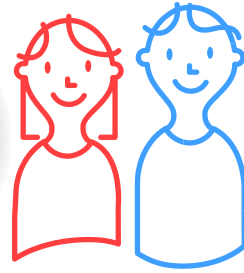


みんな で 一歩



草津市男女共
同参画啓発紙
2013. 12
No.36



男女共同参画セミナー
第1回・第2回



い〜ぶん学舎10年のあゆみ 展

『まちづくりフォーラム』を開催します！

男女共同参画セミナー第3回【2月1日(土) 13:30~】

市民交流プラザ大会議室(南草津フェリエ5階)

テーマ：これからのまちづくりにだいじなものは

講師：石阪 督規(いしざか とくのり)さん

東京未来大学モチベーション行動科学部准教授

主催：草津市・草津市男女共同参画市民会議い〜ぶん学舎

後援：草津市まちづくり協議会連合会・草津市自治連合会



発行 草津市立人権センター男女共同参画担当
〒525-0027 草津市野村三丁目1-18
電話 077-565-1550 FAX077-563-7070
Email : jinkence@city.kusatsu.lg.jp

1. 男女がともに参画する地域推進事業

人権センターでは、身近な生活の場で男女共同参画社会づくりについて学ぶため、男女がともに参画する地域推進事業を実施しています。平成23年度からは「介護」をテーマに、市民センターで講義や実技による学習を実施し、どちらの会場でも参加された方々から好評をいただいています。

…「固定的な性別役割分担意識」…

男女共同参画のキーワードの中に「固定的な性別役割分担意識」という言葉があります。これは「男は仕事、女は家庭」という言葉に象徴されるように、女性の社会進出を阻んできた考えでもありますし、現在でも未婚女性の3割以上が「結婚後は夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」と考えている調査結果もあります（第14回出生動向基本調査：国立社会保障・人口問題研究所）。

しかしながらこの「固定的な性別役割分担意識」について、今回の実技の指導を担当して下さった、滋賀県介護福祉士会のブロック長である山中一矢さんが非常に興味深い例え話をされています。

「例えばカレーライスを作る場合、男性の場合はレシピに従い、カレー用のお肉を準備し、材料も量って作られる方が多いのではないのでしょうか。女性ならば、お肉がなければツナ缶詰で代用するなど、臨機応変な対応をされる方が多いように思います。介護にもそのような臨機応変な対応が重要です。介護保険サービスを活用しながら、介護もやるが趣味も持つ、上手く気分転換を行うことが大切です。」

介護を行う男性が「燃え尽き症候群」や「虐待の加害者になってしまう」ケースが多いということが、「固定的な性別役割分担意識」と無関係では無いように思うのです。男女共同参画社会の推進は、男性のためでもある。講座の企画・運営を行いながら、新たな気づきをさせていただきました。



8月24日（土）の志津市民センター 講座の様子

…講師のお話から…

印象的だったのが「男性が介護をする場合の注意点」です。一つ目は男性が介護を行うことになった場合、完璧な仕事をしようとするあまり、例えばパートナーが亡くなられた後、急に体調を崩されるケースが多いこと、いわゆる「燃え尽き症候群（バーンアウトとも言います）」に陥ってしまうことへの注意。二つ目は、例えば介護をする相手が認知症を患っておられる場合などに、言うことをきいてもらえないことがあったりしたとき、暴力、虐待に及んでしまう場合があるということでした。

そのような状態になってしまう原因の一つとして「例えば、男性は仕事社会の中で、失敗が許されない環境で生きてこられたことにあるのではないのでしょうか」と分析されていました。



10月8日（火）玉川市民センター 実技の様子

2. 男女共同参画セミナー

第1回 9月7日(土)

市民交流プラザ

社会人落語家の切磋亭琢磨(せつさていたくま)さんをお招きし、“笑いできづこうみんなのまちを!”のテーマそのままに、互いを理解しあう始めの一步は笑顔からを実感しました。

平成24年度より、市民目線での講座を目指し協働委託事業として、草津市男女共同参画市民会議い〜ぶん学舎のみなさんと一緒に企画・運営を行なっています。

今年度のテーマは“男女共同参画が見えるまちづくり”です

第2回 11月16日(日) パワフル交流・市民の日同時開催

市役所2階レストランを会場に、草津市男女共同参画審議会会長で立命館大学教授の二宮周平(にのみやしゅうへい)さんをお招きし、草津市男女共同参画推進条例ができて4年経った今、私たちの暮らしの中で何が変わり、何が変わっていないのか、これからどう取り組んでいけばいいかなどを考えました。私たちは、次の世代にどのようなまち、社会を伝えることができるのでしょうか。

3. 出前講座

そのうちのひとつを紹介します

身近な事柄を男女共同参画の視点から見直し、問題点に気づいていただくことを目的に、これなら学べる!出前講座講師無料派遣を行なっています。

人権研修の一環として、企業、町内会、市民センター、シルバー人材センター、草津市商工会議所、保育所などからお声をかけていただいています。

今年度は新規採用職員の研修や草津市役所の庁内人権学習会にも出前しました。

レジュメ

- 1) 男女平等の現実
- 2) 漢字の中の<女>
 - ・役割で呼ばれる女たち
妻、母、妾・・・
 - ・婚姻にまつわることは
婚、姻、娶る、嫁、姑・・・
- 3) 男性優先の伝統、文化
 - ・男女、夫婦、夫妻、父母・・・
 - ・女人禁制・・・

女を使った文字には蔑視が感じられる。



過去からの習慣を受け入れるのではなく、私自身も、自分で考え決断する力を養わなければと感じた。

嫁、妹、姉、などには女が付いているのに夫、兄、弟などには男が付いていない!

4. 男女共同参画作品(写真)を募集しました。

審査結果については、既に草津市のホームページで発表していますが、ここでは編集者(写真に関しては素人)として特に印象に残った写真を紹介したいと思います。

中世古 健吾(なかぜこ けんご)さんの作品です。

写真のタイトルはありませんが、一見すると、家族で田植えをされている風景です。しかし、写真に添えられたコメントによると、伊勢神宮の神事での風景だそうで、かつては女性の参加が認められない行事だったそうです。

2年連続で写真を募集した中で、例えば「男性による子育て」「男性が多い職種で活躍する女性(あるいは女性が多くの職種で活躍する男性)」「男女が協力して活動する姿」など、テーマが絞られる傾向があるように感じていましたが、伝統行事も時代とともに変わっていくことを紹介されているところに新しい視点を感じました。



審査結果の詳細については草津市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/jinken/danjosankaku/danjo-sakuhin-result.html>

日本女性会議を ご存知ですか？



日本女性会議とは

男女共同参画社会の実現をめざし、課題の解決策を探るとともに、参加者の交流や情報のネットワーク化を図ることを目的とした全国規模の大会です。

1975年、国際連合が「国際婦人年」の宣言を行い、メキシコで第1回の「世界女性会議」が開かれ、それに続く10年を「国連婦人の10年」と定めたことが、「日本女性会議」開催の契機となり、1984年に名古屋で第1回大会が開催されました。

草津市では毎年男女共同参画のリーダー育成の一環として、日本女性会議への参加者を募集しています。

【日本女性会議 2013 あなん】

「いきいきわくわく小さなまちから新たなるステージ！」

記念すべき30回大会は10月11日から13日の3日間、徳島県阿南市で開催されました（人口8万人規模での開催は初めて）。

大会を通じて「地域の男性も女性も、意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会を」目指し、地域力の向上、参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的とし、今までで一番小さなまち阿南から、男女共同参画の新たなステージに進めるよう発信されました。

また、男性の方々の参加も年々増えており、今回は、全体の2割を占め過去最高であると報告され、男女共同参画をともに進めていこうという意識が高まっているように感じました。

来年は、「未来の景色は、わたしたちが変える」をテーマに、北海道札幌市で開催されます。

皆さんも全国規模の大会への参加を通じ、男女共同参画の理解を深めるとともに、「女性の想い」を共有する場に身を置いて見ませんか？

男性職員に聞きました！！

あなたのワーク・ライフ ・バランスは？

・・・11月のワーク・ライフ・バランス月間に・・・



今年7月に3人目の子どもが生まれ、我が子が見せる表情に心癒されながらも、子育てと格闘する毎日をご過ごしています。

我が家は夫婦共働きですが、現在は妻が育児休暇中。私は、仕事で帰りが遅くなる日も多く、子どもたちの面倒や家のことを妻に任せっきりにしてしまいがち

です。そんな中、妻が外出し、子どもたちと一緒に留守番をしていると気付くことがあります。

それは時間が経つのが思いのほか早いこと、そして家事など済ませたい家の仕事があっても思い通りに片付かないことです。普段仕事中心の生活をしていると、「妻は家で一日何をしてるのだろう？」と考えたりすることがあります。でもその答えは「子どもたちの面倒を見るだけでも大変、自分一人の時間なんてほとんどない！！」ということでした。このことに気が付いて以来、子どもたちの世話や家事を自分から率先するように心掛けています。

父親もしくは母親どちらか一方が役割としてその責任を背負うのではなく、夫婦がお互いの置かれた状況を尊重し、思いやりを持つ中で互いに協力しながら取り組むことが何より大切だと思います。

女性の社会進出が進み、家族のライフスタイルも多様化するに現在において、そんな『ワークライフバランス』の実現を強く後押ししてくれるそんな社会であってほしいと思う今日この頃です。（Y）